

革新的技術開発・緊急展開事業 (農林水産分野におけるイノベーションの推進)

【6,000百万円】

対策のポイント

国際競争力の強化に向け、明確な開発目標の下、生産者・企業・大学・研究機関がチームを組んで、生産者への実装までを視野に入れた技術開発を早急に進めます。

<背景/課題>

- ・「総合的なTPP等関連政策大綱」に即し、我が国農林水産業の体質強化を図るため、外国産との差別化や更なる生産性の向上を可能にする技術を生み出し、生産現場での速やかな活用につなげることが重要です。
- ・このため、生産性向上に直結する課題に重点を絞り、分野の垣根を越えた研究勢力を結集して研究開発を実施し、短期間で研究成果を得て生産現場に実装する必要があります。

政策目標

- 研究開発に主体的に参画した全農林漁業者が、開発した技術を実践(平成32年度)
- 生産額を1割以上増加又は生産コストを2割以上低減させる技術体系を確立(平成32年度)
- 新たな国産ブランドの農林水産物を10種類以上創出(平成32年度)

<主な内容>

1. 革新技術の社会実装の加速

(1) 経営体強化プロジェクト

農林漁業経営体の技術力強化のため、テーマ毎に、農林漁業者、企業(ベンチャー企業等)、大学、研究機関がチームを組んで、明確な開発目標の下で現場への実装までを視野に入れた技術開発を支援します。

(2) 地域戦略プロジェクト

各地域の競争力強化のため、地域戦略に基づき、研究機関と関係者(農林漁業者、民間企業、地方公共団体等)が共同で取り組む、先進技術を組み合わせた生産現場における革新的技術体系の実証研究を支援します。

2. 先導技術の研究開発

先導プロジェクト

将来に向けて競争力の飛躍的な向上を図るため、新たな価値や需要を生み出す品種、輸出促進につながる新たな生産・流通・加工技術など、次世代の技術体系を生み出す研究開発を実施します。

補助率：定額
事業実施主体：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

お問い合わせ先：

1の事業 技術会議事務局研究推進課(03-3502-7462)

2の事業 技術会議事務局研究統括官(生産技術)

(03-3502-2549)

技術会議事務局研究開発官(基礎・基盤、環境)

(03-3502-0536)

革新的技術開発・緊急展開事業 (革新技術の社会実装の加速)

【平成29年度補正予算額：60億円
うち、新規課題分：10億円】

- 我が国農林水産業の競争力強化を図るためには、生産性向上や高付加価値化に直結する技術を開発し、これを速やかに生産現場へ実装する必要。このため、①現場ニーズに沿った明確な開発目標を設定し、②農林漁業者・企業（ベンチャー企業等）大学・研究機関がチームを組んで、生産現場への実装までを視野に入れた技術開発を推進。
- 日EU・EPAの交渉妥結を踏まえ、EUとの競争力強化等を視野に入れた技術開発を推進。

これまでの取組

ブルドーザの農業利用による機械コスト低減(H29～)

研究内容:

機械コストの低減を目的として、トラクタよりも耐久性が高い建設用ブルドーザを農業用に改良し、農業・建設併用可能な次世代農機を開発。

これまでの取組:

ブルドーザによる水田の均平化、直播作業に目処。今後は幅広い作業体系への活用を実証。



果実等の鮮度保持輸送技術の開発(H28～)

研究内容:

農産物の輸出において必要となる多品目混載海上輸送を可能とするため、多温度維持コンテナ、エチレン除去装置等を開発。

これまでの取組:

多温度維持及びエチレン除去に必要な機器の開発に目処。今後、コンテナ等の試作機による輸出実証を実施。



日EU・EPAの交渉妥結への対応

- 日EU・EPAの交渉妥結を踏まえた新たな技術開発ニーズにも対応

これまでの研究開発に加え、EUとの競争力強化等を視野に入れた技術開発を推進し、農林水産業の体質強化を加速化。

<技術開発のイメージ>

- チーズの製造技術の開発に向けた国産発酵微生物活用

国産チーズの競争力強化に向け、現在外国産に依存している発酵微生物について、日本独自の風味や香り等の品質を実現する純国産発酵微生物を探索し、チーズの製造技術に活用

<イメージ>



発酵微生物

- 製造用集成材等の木材製品の国際競争力を強化する技術の開発

国産の構造用集成材等の木材製品の競争力を高めるため、加工施設の効率化、原木供給の低コスト化に資する技術を開発



集成材

出典：林野庁「平成26年度
森林・林業白書」